

■**亀田鵬斎** 漢学者。異学の禁で仕官の道絶たれ、世の無用者を自認して詩酒に沈湎しながら、大立者として聳立した。

かめだほうさい

・ ・ ・ ・ ・ 1752 = 江戸神田に生まれた。父は上野国の農民だったが、若い頃江戸に出てきて馬喰町の酪甲商長門屋に奉公、鵬斎誕生の頃は通い番頭をしていた。
薩摩藩工事・1753 = 1歳：母は産後の肥立ちが悪くて次の年亡くなり、父によって育てられた。

源内物産会・1757 = 5歳：この頃町内の飯塚肥山について素読を習い、また書を細井広沢の門人三井親和に学んだという。

大岡忠光没・1760 = 8歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1761 = **9歳**：

蘭金銀錦絵始1765 = 13歳：_折衷学派の**泰斗井上金峨の塾に入る**。才力は群を抜き、出藍の誉れがあつて、師の**金峨も'彼は牛後たる者ではない。自分もまたまさに一頭地を抜けん'**と嗟嘆した。

・ ・ ・ ・ ・ 1770 = **18歳**：

田沼意次老中1772 = 20歳：

解体新書・ ・ 1774 = 22歳：赤坂山王社の傍で***家塾を開く**。

性豪適にして世儒を白眼視し、同門の山本北山・原狂斎と仲が良く、北山とは2人で文治上の権力を握って、それぞれ一方の領袖となることを誓い合った。博学洽聞、その名が四方に轟いた。欧蘇の平散流暢の文を作為し、李王の説を反駁し、_江戸の文風を一変させたとも言われる。

源内獄中死・1779 = **27歳**：

蘭学階梯・ ・ 1783 = 31歳：人気ある故に、浅間山の噴火の際には、蔵書を売って貧民の救済したなどの伝説も生まれる。

意知刺殺事件1784 = 32歳：佐久間町の{躰寿館}へ講義に行く。

蝦夷初調査・1785 = 33歳：_家塾を駿河台に移し、{育英堂}と称する。

田沼意次失脚1786 = 34歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1788 = **36歳**：_すでに評判の学者となっていて、幕府の登用に預かるべく、この前後、***僚友山本北山とともに、御勘定吟味役大林親用の家で頻りに講義する一方、松平定信の意向に添いそうもないことも意識して、慎重に振る舞っていたが、**
異学の禁・ ・ 1790 = 38歳：_老中松平定信の異学の禁により、賑わいをみせていた塾も、門人が次第に去って寂しくなってしまう。尾張藩主が師を求めていることを知った井上金峨から、細井平洲の門を経由する形で尾張侯の招聘に応じるよう勧められるも、断固として断わり、

ラスマン来日・1792 = 40歳：***町人相手に自己流で出講釈することを表明、**

松平定信引退1793 = 41歳：

_人の営みは移ろいやすいものと達観し、もともと酒徒だったことから、「莊子」から得た享楽思想により、酒の世界にのめり込んで行く。

昌平饗始・ ・ 1797 = **45歳**：_駿河台の{楽群堂}を閉じて本所横川の出村に移る。

蝦夷地直轄始1799 = 47歳：大坂方面から紀州を旅行。

伊能測量始・1800 = 48歳：馬喰町附木店に移住。「黍稷稻梁弁」刊、

本居宣長没・1801 = 49歳：_下谷金杉中村に移る。

アヲカ船来航始1803 = 51歳：埼玉郡久喜郷の{遷善館}で講学。

イヅノ報復・1806 = **54歳**：

ウツ船狼藉・1807 = 55歳：利根川流域境町の箱島家に逗留。

間宮海峡発見1809 = 57歳：佐渡相川で「論語」を講じ、金杉石稻荷前に新居。越後の国上山に登って良寛に会う。この年の書簡をみても、_酒色の世界に耽溺しており、儒者らからの非難は止むことが無いが、

この間、京都・近江のほか、信越・佐渡を中心に東日本各地を旅行。

黒住教・ ・ 1814 = 62歳：佐渡の励風館印行「旧注蒙求」。

・ ・ ・ ・ ・ 1815 = **63歳**：

伊能測量終・1816 = 64歳：この頃、鵬斎画「胸中山」刊。

_諸侯が集まる書画の会で、皆が田沼意次のことを誇るなか、毅然と反論するなど、硬骨ぶりも見せ、

水野忠成老中1818 = 66歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1820 = 68歳：自費で赤穂四十七士顕彰碑をつくり泉岳寺に寄進。

英船浦賀来航1822 = 70歳：「鵬斎先生詩鈔」刊。

シボノ小鳴滝塾1824 = **72歳**：

***'金杉の老先生'と呼ばれて人々から慕われるなか、**

・ ・ ・ ・ ・ 1826 = 74歳：そこで_没した。